☆テクノス通信

......

HOME topics

2017.04 VOL.1

今回の Topic ――見守り介護ロボット『ケアロボ』――

高齢者ケア製品と家族を つ・な・ぐ!

「ケアロボ」で変わる、在宅高齢者介護!

平成 24 年 (今から 5 年前)・・・

「ケアロボ」は、高齢者ケア包括支援システム TASCAL(たすかる)の核となる プラットホームとして誕生しました。

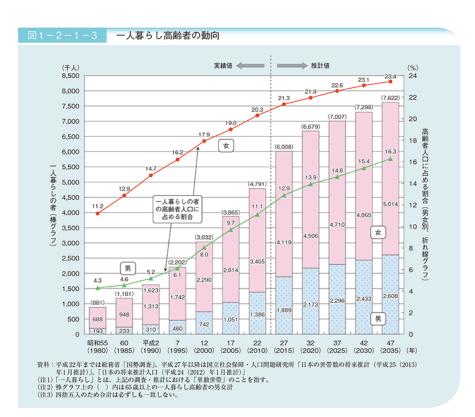
私たちが目指したのは、これからの在宅高齢者ケアの現場で本当に役立つ

実現可能で現実的な、見守り介護ロボット"の開発でした。



1. 高齢者家族と世帯

- ・子供との同居の割合は大幅に減少
- ・一人暮らし又は夫婦のみの世帯は共に大幅に増加







2. 平成 37 年(2025)

65 歳以上の認知症患者数が約 700 万人に増加



【出典:平成28年版高齢社会白書(概要版)/厚労省】

3. 2025 年には約38万人の介護人材が不足

介護人材の需要見込み(2025年度)	253.0万人
現状推移シナリオによる 介護人材の供給見込み(2025年)	215.2万人
需給ギャップ(介護人材不足数)	37.7万人

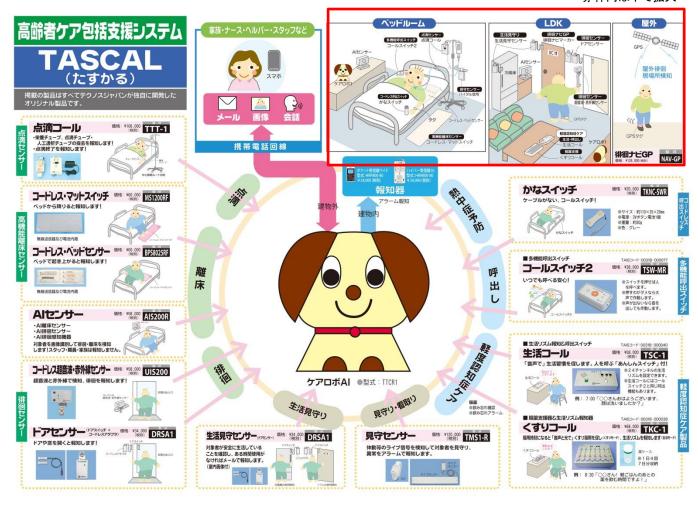
【出典:2025年に向けた介護人材にかかる需給推計(確定値)/厚労省】

高齢者が住み慣れた地域で安心して生活をし続けるには、訪問介護・看護サービスやサービスを提供する体制など、 地域に応じたケアの仕組みが必要ですが、併せて、高齢者や家族や介護スタッフを支援する福祉機器(用具)の役割 がとても重要です。

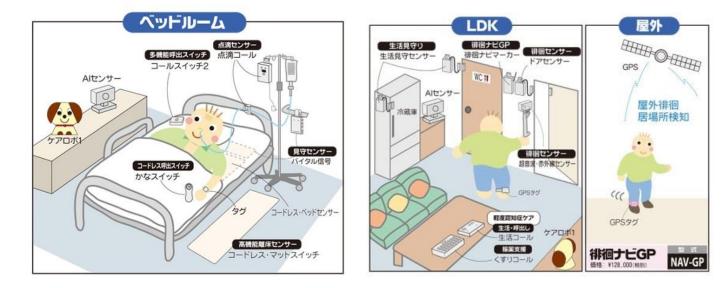
これからの在宅高齢者ケアで<u>真に役立つ「見守り介護ロボット」</u>は、介護現場の皆様が使いやすく、販売・レンタル事業者様が取り扱いしやすい製品であるべきです。

そこで「ケアロボ」は、既に介護の現場で使い続けられている様々な認知症対策の製品(自社開発センサー等)を<u>無</u> 線通信でつなぎ、そして、家族や介護スタッフが携帯するスマートフォンと携帯電話網でつながります。 つまり、新たな通信 環境や機器を必要としないのですぐに使え、且つ、現実的な見守り介護を支援します。 ■高齢者ケア包括支援システム:TASCAL(たすかる)の中でプラットホームの役割を担う「ケアロボ」

*赤枠内は下で拡大



■TASCAL(たすかる)主なセンサーの設置イメージ: ベッド周りやリビング・屋外で高齢者を見守ります!



高齢者の生活環境や状況に合わせて選べるセンサー!

■「ケアロボ」の機能と特徴

犬のカバーを着けると可愛く見えますが、本体は高機能センサーやカメラ、通信機器を内蔵しています!





- ①在宅高齢者の<u>見守り・安否確認・認知症ケア</u> のセンサーや機器と通信でつながる! (センサー類アラーム受信モジュール)
- ②室温の異常(高温・低温)をキャッチする (室温センサー)
- ③高齢者の状態を写真に収める (赤外線カメラ・赤外線 LED)
- ④センサー作動を写真付きメールで家族・介護 従事者へ知らせる (携帯電話モジュール・アンテナ)
- ⑤家族・介護従事者からの電話を受信して会話 ができる (スピーカー・マイク)

■「ケアロボ」の運用イメージ:

高齢者の様子を介護者のスマホ・携帯に写真付きメールで知らせます! 外出先など、離れた場所にいても見守りケアができるので安心!

